

世界に誇れる 日本の橋の デザインとは

デザインはその国の文化を知る、伝える重要な媒体である。今や日本文化はアニメやマンガが代表するとはいえ、デザインを介した国際的な文化交流に建築やIDだけでなく、土木の分野も参加することが期待される。構造物のデザイン発信を行うとすれば、やはり橋が考えられる。その時、日本が世界に誇れる橋のデザインとはどのようなものだろう。

本州四国連絡橋をはじめとした長大橋をもって日本の橋梁技術は世界に誇れるものと認識されるに至ったが、今や世界の長大橋の上位は中国が占める。耐震設計や厳しい条件での架設などにおいて日本の橋梁技術は世界に誇れるが、日本の橋梁デザインを代表する作品といえるものがあるだろうか。つまり、誰もが思い浮かべる日本が世界に誇れる橋は？と聞かれた時に、錦帯橋以外に何をあげればよいか迷ってしまうのではないだろうか。

橋のデザインにおいては前世紀末にカラトラバが日本にも紹介されるようになり、その好き嫌いもふくめて橋のデザインの議論が活発になった時期があった。その後も土木学会デザイン賞の授賞作品やデザインコンペを通して橋のデザインへの取り組みはそれなりに続いている。土木デザインの花形はやはり橋だという認識もあり、市民や子どもたちにも橋は人気があり、観光資源やドラマの舞台にもなる。

本シンポジウムは、橋梁デザインの国際発信の場としてスペイン中心に企画されていた「橋梁デザイントリエンナーレ」に向けて、土木学会が進めてきた準備の議論を踏まえたものである。残念ながらこの企画はコロナ禍等で急遽開催が見送られることになったが、来るべき時にむけた議論は継続していきたい。その意味でも、もう一度問うてみよう、「世界に誇れる日本の橋のデザインとはなにか」。景観・デザイン分野に限らず、橋梁に関わるエンジニア、デザイナーに広くご参集いただき、世界と日本の橋のデザインの今を見つめ、生活に欠かすことができず、風景の大事な要素となる橋のデザインについて考える機会としたい。

2021年12月10日 (金) 17:30-20:00 Web形式で開催

プログラム

1. 開会挨拶 藤野陽三 城西大学学長・東京大学名誉教授
 2. 趣旨説明 景観・デザイン委員会 委員長佐々木葉
 3. 基調講演1 「魅力的なコンセプトチュアルデザインに向けて」
春日昭夫氏 FIB会長 三井住友建設(株) 執行役員副社長CTO
 4. 基調講演2 「多面的な価値を持つ日本の橋」
二井昭佳氏 国土館大学 教授
- (休憩)
5. パネルディスカッション 「日本の橋のデザインの今と未来」
コーディネーター：二井昭佳氏 (前掲)
パネリスト：春日昭夫氏 (前掲)
松井幹雄氏 (大日本コンサルタント(株) 執行役員)
 6. 閉会挨拶 景観・デザイン研究編集小委員会委員長 高楊裕幸



春日昭夫氏



二井昭佳氏



松井幹雄氏

主催：土木学会 景観・デザイン委員会

参加方法：土木学会 [「本部主催行事の参加申込」](#) サイトからお申し込みください。
メールにてシンポジウムのURLを別途お知らせします。

CPD：土木学会認定CPDプログラムに申請中です。詳細については、webサイト
をご確認ください。

問合せ先：土木学会研究事業課 小澤一輝 職員

E-mail: k-ozawa@jsce.or.jp

Tel: 03-3355-3559/Fax: 03-5379-0125